

みやま診療所危機

= 所長・中村医師辞職意向 =

加盟組合の美山診療所職員組合の事業所、国保南丹みやま診療所が閉鎖の危機となっています。

事の発端は、2022年11月に病床（4床）を突然休止したことから。所



長である中村医師の体調不良を理由としたものでしたが、当時、中村医師は「病床を閉めてほしいと一度も言っていない。」と述べていました。病床休止が強行されて以降も、「再開しなければ辞職する」と市に迫り続けましたが、医師・看護師の職体制が整っていないと理由を次々と変えて、中村医師の訴えを退けていました。こうした中で、中村医師の体調は3月の診察で「業務に支障はなし」と診断されました。しかし市は、「医師2人体制でないと再開できない」と述べ、その具体策すら示すことはできませんでした。そもそも、11月の病床休止の際に、いち早く、土日の桂病院からの医師派遣を断り、夜勤可能な看護師を雇止めし、夜勤体制を壊したのは南丹市です。

そして中村医師は、万策尽き、「病床再開を約束できないなら、辞める」と6月30日退職を表明（7月1日からの就職先も決定）。本心ではない決断について、「なんとか住民の方々の要望に応えられるような医療機関に戻ったかった」と無念を打ち明けています。

中村医師が退職すると7月から月曜～金曜の午前診、月曜の夜診、そして午後の往診ができなくなります。そして30人近くの職員の雇用が危ぶまれます。

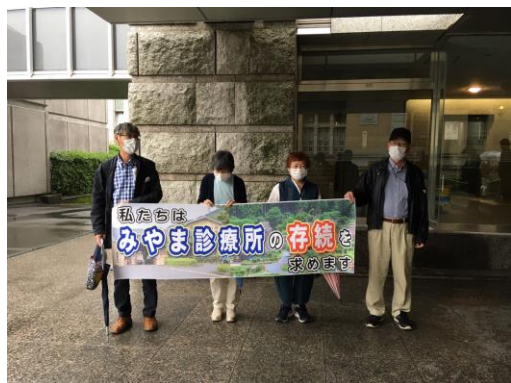
市が今やるべきことは、中村医師の辞職意向を翻意してもらうようお願いをすることではないでしょうか。そしてそのために「病床再開」にむけた方策を示し、中村先生本人との話し合いをすべきです。

加盟組織のみなさんには、みやま診療所の存続を求める要請・激faxをお願いしましたので、ご協力をお願いします。



守る会は府に「最大限の方策を」と追求、同日、記者会見実施！！

こうした中で、「美山の医療を守る会」は、5月19日（金）に京都府に対し、「医師確保計画の観点から…府立医大や中部医療センター等と連携し、診療所の医師確保に全力を果た…最大限の方策を講じるよう」と要請しました。さらに記者会見を行い、病床休止以降の医療・介護体制の不十分さ（1時間かけ中部医療センターに診察に行ったら、「帰っても大丈夫」と医師に言われた。しかし1時間かけて帰るのはしんどい。1人暮らしで帰っても安心できない。美山診療所に病床があればいいのに。）を指摘しました。「解決する道は中村先生に残ってもらうこと。南丹市長が中村先生の辞職を留意するようにお願いすることしかない。そして住民の願いでもある『病床再開』するように、市が奮闘するしかないのではないか」と住民は訴えました。



第2回洛西健康まつり

洛西ニュータウン病院労組も参加する、洛西の医療をよくする会は、5月14日（日）午前中、第2回洛西健康まつりを開催しました。健康チェック、聞こえの悩み・座談会、子ども遊びコーナー等、多彩な取り組みが行われ、地元の塚本医院の院長先生から「認知症を正しく知ろう！」と学びました。住民要求（医療）アンケートの報告、地域の医療に対する交流を行いました。



＝住民要求（医療）アンケートより＝

受診されていて、何か困ったことはありますか？ ●洛西ニュータウン病院の婦人科が閉科されて近隣の婦人科がなくなり、どこにあるのか判らず受診できていない。 ●市バスしかニュータウンには交通機関がなく、病院までの市バスの本数が大変少なく、すごく不便です。

行政に対するご意見やご要望はありますか？ ●若い人が住みやすく子育てしやすい町づくりをしてほしい。 ●高齢者も出ていった団塊ジュニアも老後帰ってこられるような地域になるように、医療、交通、商店問題等、行政が力を入れてほしい。洛西は自然豊かなすばらしい地域。 ●スーパーもなくなり高齢者は日々の買物に困っています。 ●ゴーストタウンですでの、期待は持てず、残念です。

洛西ニュータウン病院に何を望みますか？ ●婦人科を充実・復活させて欲しい。 ●総合病院として続けてほしい。 ●救急の医療に力を入れてほしい。自分で話せない年齢の子どもは救急や夜間の病院を探すのが大変。 ●巡回バスが運行されているが、回数を増やして欲しい。 ●訪問看護や訪問介護がほしい。 ●整形外科を充実させてほしい。 ●療養型が少ないので安心して入院できるように。